

Google Workspace for Education

学習管理システムとしての Google Classroom の使用チェックリスト

Google Workspace for Education の有償エディション ([Education Standard](#)、[Teaching and Learning Upgrade](#)、[Education Plus](#)) は、教育向けにカスタマイズされたエンタープライズ級のツールを備えており、革新的な学習環境の実現に役立ちます。ここでは、Google Classroom を学習管理システムとして使用するための対策をご紹介します。

Google Workspace for Education のご検討は初めてですか？

エキスパートが詳しくご案内しますので、[こちら](#)からお問い合わせください。

Google Workspace 管理者の方には、Classroom を効果的に活用するために以下のような基本的対策を行っていただくことをおすすめいたします。

- [Classroom へのユーザー アクセス](#)を制御する
- [クラスを設定](#)する
- Classroom [データへのアクセス](#)を設定する
- [Google Classroom ユーザーガイド](#)を確認する
- [Classroom のベータ版プログラム](#)に申し込む
- [Classroom と SIS を接続する](#)
- [SIS の名簿インポート](#)を設定する
- Clever + Google [Classroom の設定ガイド](#)
- Meet を使って [遠隔学習を行う](#)
- [Classroom の使用状況レポート](#)を確認する
- [独自性レポートの作成の仕組み](#)を理解する
- [独自性レポートとプライバシー](#)に関するよくある質問
- 教師向けのリソース: [独自性レポートを有効にする](#)
- 生徒向けのリソース: [独自性レポートの作成方法](#)
- 教師向けのリソース: [独自性レポートの確認方法](#)
- 管理者向けのリソース: [「校内での一致」機能を有効にする](#)